

鉄道へのモーダルシフトの現状と課題

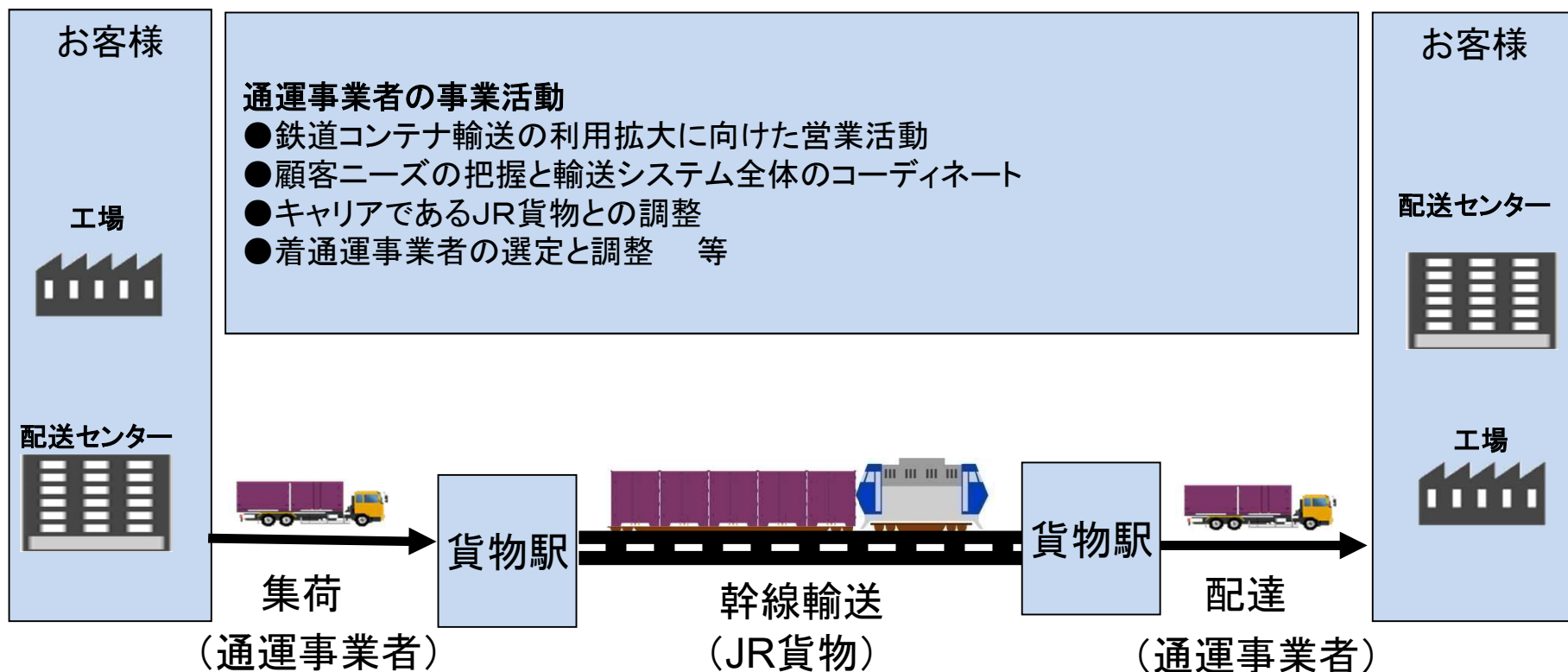
2023年9月13日

公益社団法人 全国通運連盟



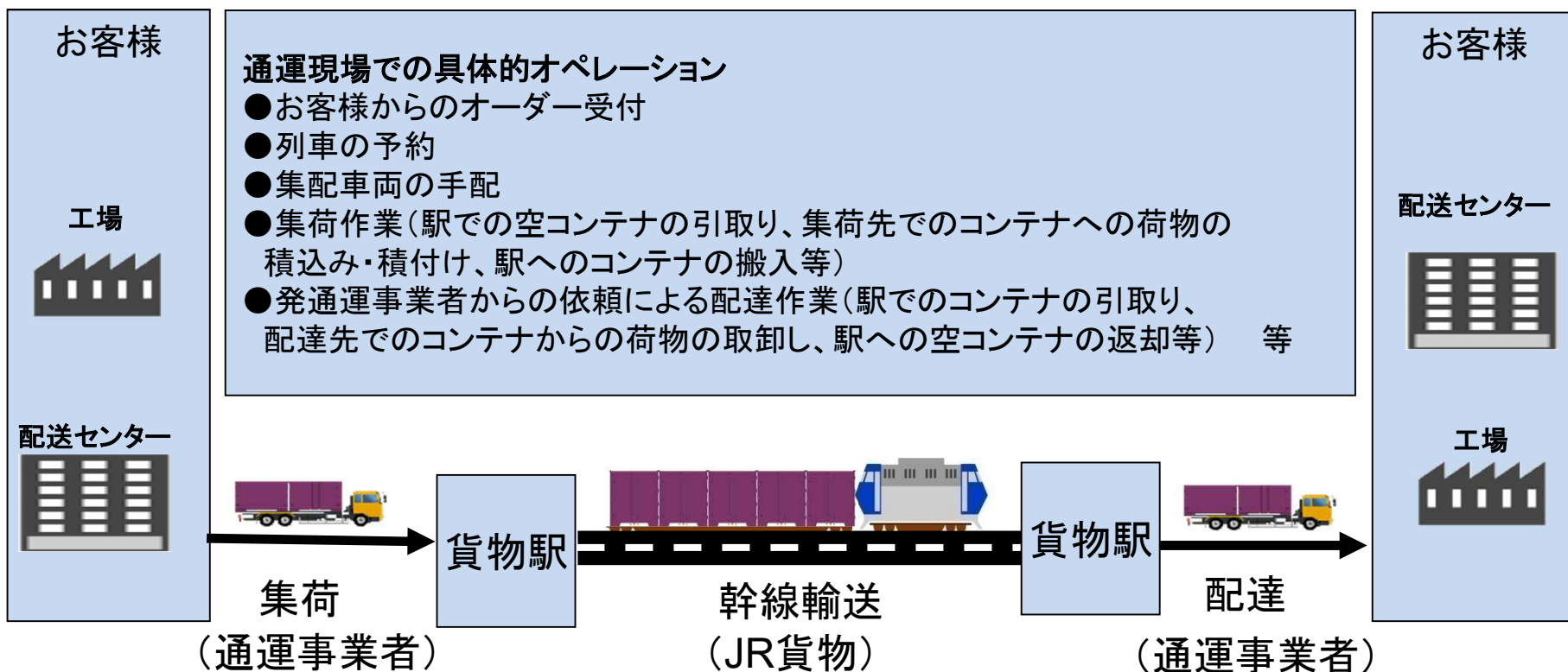
通運事業の果たす役割

★荷主に対して一貫運送責任を通運事業者(鉄道に係る第2種貨物利用運送事業者)が負い、ドア・ツー・ドアの輸送サービスを提供。



通運事業の果たす役割

★発地での集荷と着地での配達を通運事業者が担う。



通運事業の果たす役割

★食料工業品、宅配便、紙・パルプ等、生活関連物資から産業関連物資まで幅広い品目を輸送。

食料工業品……食品、飲料等、

積合せ貨物等……宅配便等、

紙・パルプ等……ロール紙、板紙等、

農産品・青果物……じゃがいも、玉ねぎ等

化学工業品……樹脂製品、化学繊維等、

他工業品……金属製品、陶磁器等

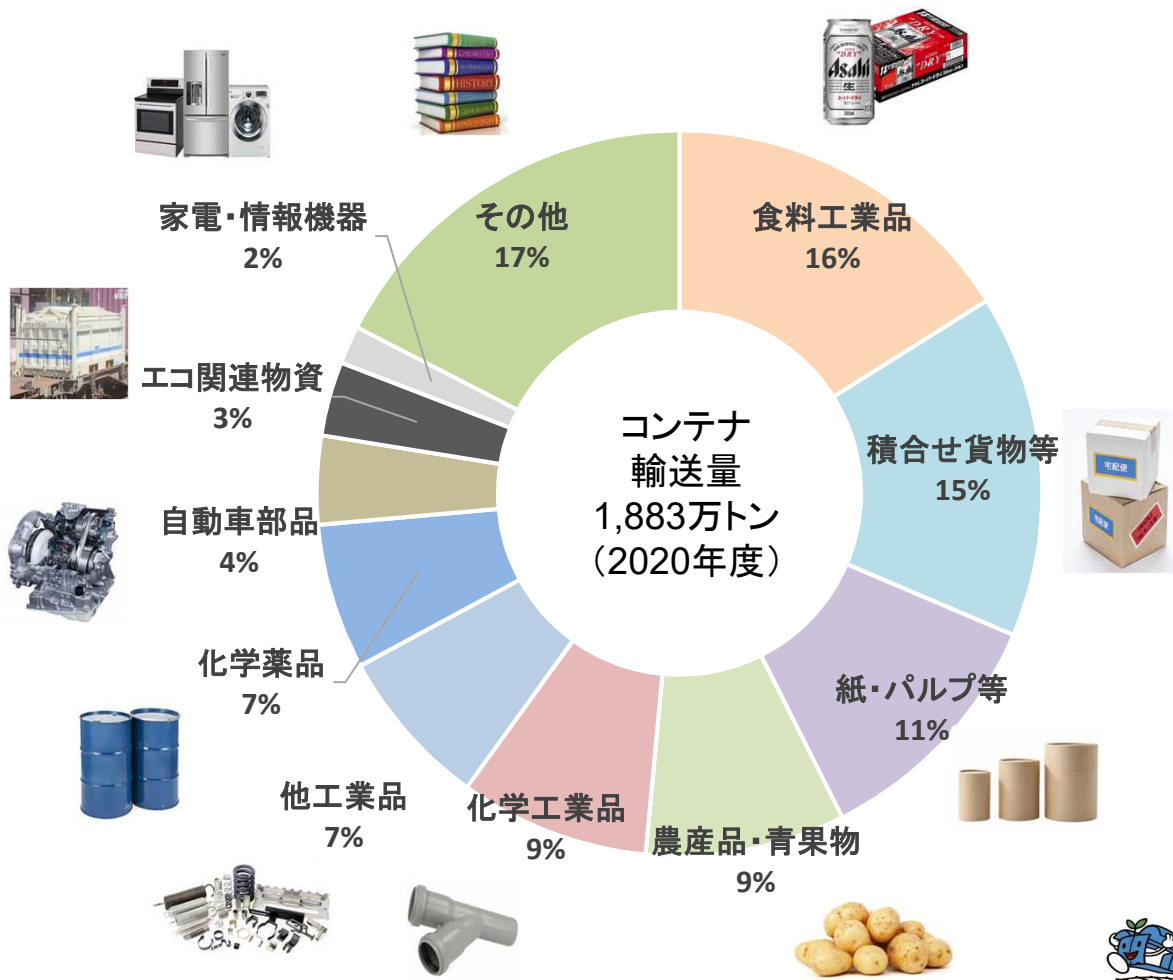
化学薬品……塩酸、硝酸ナトリウム等、

自動車部品……トランスミッション等、

エコ関連物資……焼却灰、使用済電池等、

家電・情報機器……冷蔵庫、洗濯機等、

その他……書籍・雑誌等、



★鉄道コンテナお試し輸送キャンペーンによる効率化

◎鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフト促進および増送を支援するため、鉄道運賃および集荷・配達料金等の8割を全国通運連盟が助成する制度。この制度を活用して、パレット化(②)、ラウンドユース(③)といった生産性向上の取組みを促進。

◎助成対象

①新規荷主の獲得のための試験輸送

②コンテナへの積込方法を手積からパレット積に変更し、生産性向上に資するための試験輸送

③私有大型コンテナのラウンドユースを行い、生産性向上に資するための試験輸送

④養生資材の変更、積付資機材の変更、コンテナ種類の変更、各種データ取得等輸送品質改善に資するための試験輸送

⑤既存荷主の新規輸送区間獲得のための試験輸送

◎近年の実績

令和4年度：767個（内訳：①354個 ②11個 ③17個 ④42個 ⑤343個）

令和3年度：702個（内訳：①376個 ②21個 ③10個 ④21個 ⑤274個）



★グリーン物流推進支援事業助成制度による効率化

◎第2種鉄道貨物利用運送事業(通運事業)の用に供される私有(大型)高規格コンテナの取得を支援する制度。この制度を活用して、ラウンドユースによる生産性向上の取組みを促進。

◎助成対象

会員事業者が独自に取り組む高性能コンテナの導入、集配の効率化その他の創意工夫により、新規モーダルシフト貨物の開拓や物流のグリーン化に資する改善策に係るコンテナとして当連盟が認めたもの

◎助成要件

原則として、往路復路ともに貨物を積載するラウンドユースを前提とした運用を行うコンテナの導入

◎助成率・金額

助成対象経費の1/3以下(上限400万円/個)

1事業者あたり年間累計助成額の上限あり

◎制度開始からの実績

平成16年度～令和4年度:1,566個(約82個/年)

★グリーン物流推進支援事業助成制度による効率化

◎31ftコンテナの現状(有がい)

- ・所有者別保有個数(令和5年4月1日現在)

所有者	個数
JR貨物	139
JR貨物以外※	2,515
合計	2,654

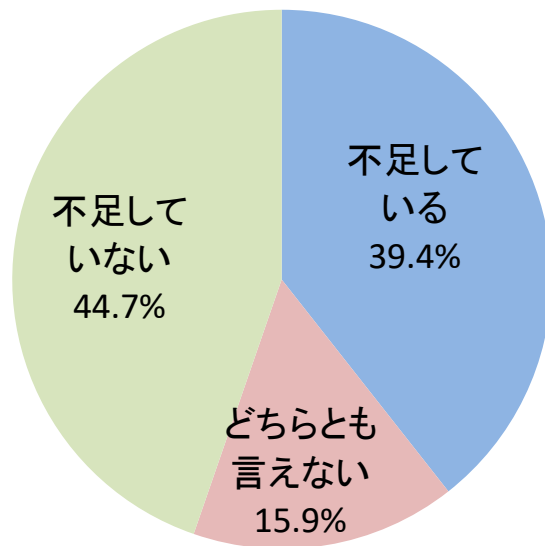
※主に通運事業者

◎課題

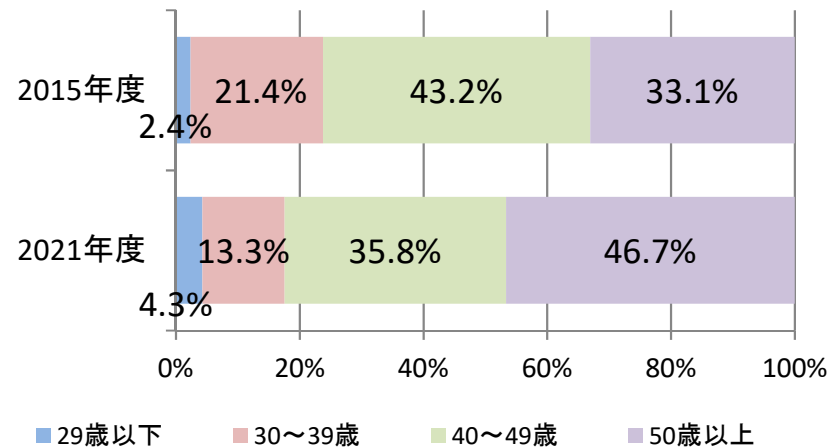
- ・コンテナ価格が高価であるため所有は大手の事業者事実上限界、中小事業者の所有が困難
- ・復路輸送が確保できない場合は空コンテナを回送する必要あり
- ・中小事業者が設備投資を伴わず容易に使用できる環境整備が必要

★通運事業者の約4割が集配ドライバーの不足感を感じる一方、高齢化が進み、若年ドライバーの確保・定着が進まない状況。

集配ドライバーについての
労働力不足感
(令和3年度)

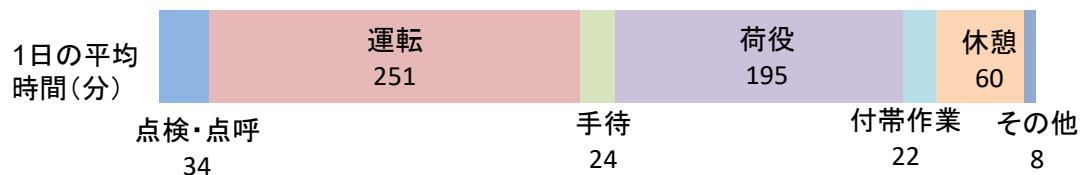


ドライバーの年齢構成比



★その主な要因は、作業時間の3割以上(1日当り平均195分)を荷役作業が占めており、荷役方法のうち約5割以上が手荷役でパレット化がなかなか進まないこと。
⇒パレット化・標準化等の推進が必要。

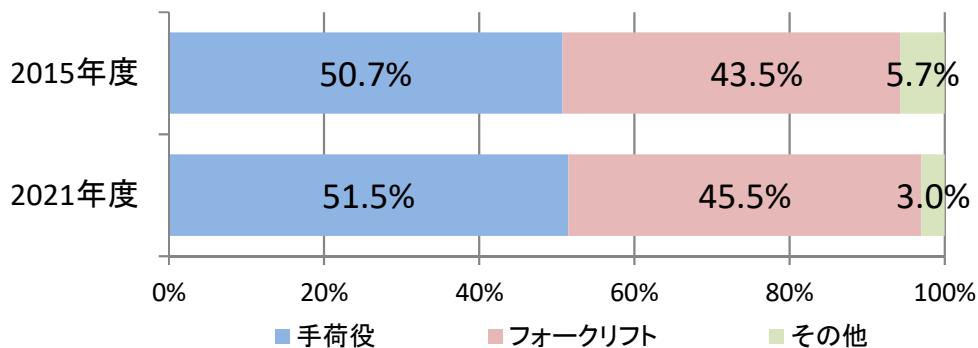
集配ドライバーの1日の作業時間分布
(令和3年度671運行の平均値)



12ftコンテナでの手荷役作業



荷役方法



★集配業務の現状と課題

◎2015年度調査時点での効率化阻害要因は、大きな改善に至っていない。

- ・ 12ftコンテナの荷役作業は「手荷役」が主体
- ・ パレット荷役でも養生作業等に多くの労力と時間を要している
- ・ 手待ち時間が発生している などなど

◎ただし『時間指定』、『作業条件の書面化』、『荷役料金の収受』など改善の動きもみられる。

★ドライバー確保問題への対応

◎ドライバー不足への対応には、作業効率化に向けた、以下のような対応が必要。

- ・ 荷積み・荷卸しに係る待機時間・作業時間の削減
- ・ パレットの標準化、段ボール箱の標準化
- ・ 集配車両の大型化
- ・ ITシステムの積極的な活用

★全国通運連盟とは

【目的】 通運事業(鉄道に係る第二種貨物利用運送事業)の健全な発展を図り、もって公共の福祉に寄与する。

【沿革】 昭和27年 全国通運業連盟として発足
昭和46年 社団法人としての許可取得(社団法人全国通運連盟へ改称)
平成25年 公益社団法人へ移行

【会員数】 395(主要会員:日本通運(株)、ヤマト運輸(株)、センコー(株)、他90%以上が中小企業)

【事業内容】 ①環境対策・労働力不足対策事業
②政策推進事業
③安全対策事業
④人材育成・人材確保事業
⑤広報情報事業 等